

令和6年度全国標準学力検査(NRT)結果の概要

1 全国標準学力検査（NRT）について

【調査の目的】

子どもたちがこれまでの学習活動を通して獲得した基礎的、基本的な力や活用する力について把握・分析し、今後の学習指導の充実と学習状況の改善に役立てます。

【実施について】

対象学年：小学校 4、5、6 学年 中学校 1、2、3 学年

実施教科：小学校 国語 算数 理科の 3 教科

中学校 国語 社会 数学 理科 英語（1 学年は除く）の 5 教科



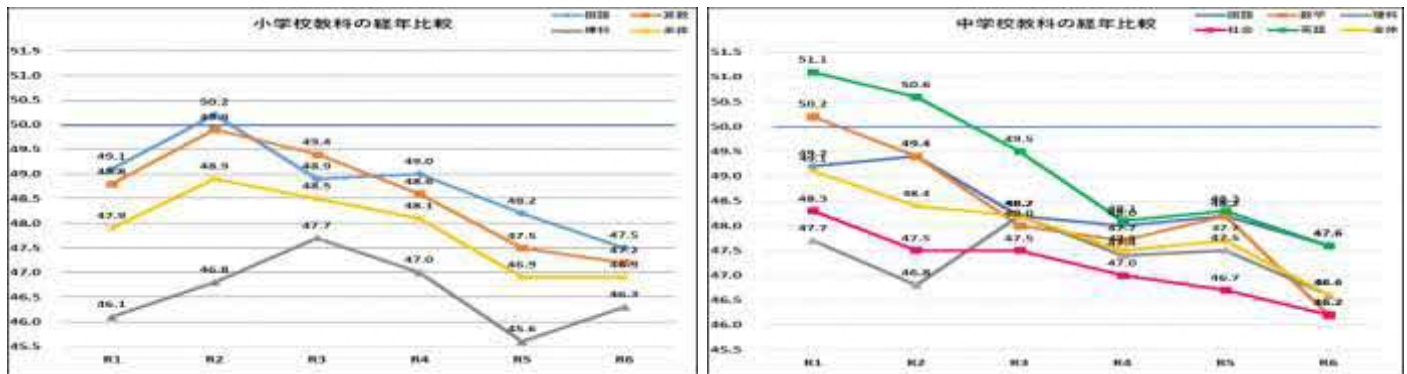
2 今年度の結果

令和6年度 全国標準学力検査の結果					全国の学力偏差値を50として比較します				
小学校	国語	算数	理科	中学校	国語	社会	数学	理科	英語
4 年	▼46.8	▽47.5	▼45.8	1年	▼46.8	▼45.2	▼46.4	▼45.2	
5 年	49.1	▽47.8	▽47.4	2年	▽48.1	▼46.6	▽47.8	▽47.4	▽48.0
6 年	▼46.7	▼46.4	▼45.7	3年	▽47.9	▼46.8	▼45.7	▼46.1	▽47.2

印なし：概ね全国並み（49 以上～51 未満） ▽：全国平均をやや下回る（47 以上～49 未満） ▼：全国平均を大きく下回る（47 未満）

3 偏差値平均の経年比較

※全体＝全教科（小学校 3 教科、中学校 5 教科）の平均



4 正答率が高かった領域

※表中の数値は、全国平均の正答率（100）に対する市の正答率

小学校				全国比	中学校				全国比
国語	5 年	文章を整え感想や意見を伝え合う		104	理科	2 年	地層		107
理科	5 年	空気や水の体積とおし返す力		104	国語	1 年	主題や構成を読み取る		102
算数	6 年	小数のかけ算とわり算		101	国語	3 年	情報を選び構成を考えて話す		102

5 観点別正答率

※表中の数値は、全国平均の正答率（100）に対する市の正答率

教科	小学校			中学校				
	国語	算数	理科	国語	社会	数学	理科	英語
知識・技能	92	93	92	94	88	89	89	93
思考・判断・表現	93	87	91	93	89	88	89	93

6 考察

偏差値平均は、小学校は国語・算数は昨年度を下回りましたが、理科は昨年度より改善、中学校はどの教科も昨年度を下回りました。まなびのプラン（学力向上計画）の測定指標に設定している低位層の割合も小中学校ともに全国より高く、課題がありますが、AI 型ドリルも活用して授業や家庭学習で基礎基本の学習を繰り返し行い、成果がみられたところもあります。

また、国語科を中心に、授業で意見を伝える活動を活発に行ったり、文章の主題や構成を読み取ったり、話し合う活動で考えを深めたりしたこと、理科では、実験や観察の観点を示し、結果や考察をまとめる活動を行ったことなどが挙げられます。授業のめあてを明確にし、こどもが主体的に学び、わかる授業を行ったことが成果に繋がったと考えられます。

経年でみると、全体的に正答率が下降していることを課題と捉え、国・府の学力調査等の結果分析とあわせて、学力向上に向けた取組みを進めているところです。